



# 監 査 報 告 書

平成29年 5月31日

社会福祉法人埼玉県共済会  
理事長 福島 正道

監 事 岸 本 晋 一   
監 事 蒔 田 廣 重 

私共は、社会福祉法人埼玉県共済会の定款第32条に基づき、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの事業年度に関して、理事の業務執行の状況及び決算について「監事監査重点項目」に従って監査を実施したので、監査結果をつぎのとおり報告する。

## 記

1. 監査を行った日 平成29年 5月29日・31日
2. 監査を行った場所 尚 和 園 会議室  
介護老人保健施設 会議室  
年 輪 荘 会議室
3. 監査に立ち会った者  
社会福祉法人埼玉県共済会 理 事 長 福 島 正 道  
尚和園 園 長 布 川 展 弘  
" 副園長・事務局長 並 木 三 男  
" 総務課長 山 田 光 和  
" (介護老人保健施設) 副施設長・事務長 小 泉 俊 一  
" 主 任 福 島 透  
" 事 務 員 小 林 弘 樹  
" 事 務 員 谷 崎 和 寿  
年輪荘 施 設 長 島 田 昇 二  
" 事 務 長 栗 原 正 男  
" 事 務 員 矢 野 麻 美

4. 本会の定款第32条の規定に基づいて、理事長より提出された事業報告書並びに貸借対照表・事業活動収支計算書、資金収支計算書、決算付属明細書、財産目録及び通帳、証憑書類等について、5月29日午前中、年輪荘、午後介護老人保健施設アンシャンテ、5月31日は、尚和園各事業について、福島理事長始め関係職員の出席・立会をいただき監査を実施した。

(1) 平成28年度における各事業所の執行状況は、事業報告書に記載されているとおり概ね事業計画に基づき、適正に行われていると認められた。

主な、施設の利用状況をみると、養護老人ホーム尚和園82.4%、老人保健施設アンシャンテ80.2%と利用率が大きく低下している、その他施設についても、年輪荘養護老人ホームが97.6%、特別養護老人ホーム尚和園(従来型)95.4%と僅かではあるが前年を下廻る結果となった。

その中、新設の特別養護老人ホーム尚和園(ユニット型)については、利用率75.1%と低い数字となったが、これは、介護職員の充足に伴い解消されるとのことであった、現に、三月には、44名を入所させているので、これを維持されるよう努力されたい。

また、尚和園ディサービス(72.1%)、介護老人保健施設通所リハビリ(62.9%)、年輪荘ディサービス(55.3%)の三事業も、昨年度に引き続き利用率が、低迷しているので、施設間の競争の厳しい状況下ではあるが、今後も利用率の増加を図るよう対策を実施されたい。

なお、養護老人ホーム尚和園、老人保健施設アンシャンテの利用率は、法人経営の根幹であり、早急に原因を究明され改善策を実施されたい。

収支状況は、施設全体を見ると、利用率の低下の影響を受け、前年度を僅かではあるが下回る結果となり、経営は厳しい状況にある。

養護老人ホーム尚和園(特定含む)については、事業活動収入が前年度に比し36,009千円、率にして12.1%の減となっており、施設整備、その他の活動を併せ5,106千円の赤字となった、養護については、福祉事務所からの入所依頼が減少しているとの話も聞くが、各市の福祉事務所や関係機関との連携を密にされ、積極的な営業活動により収益改善を図られるよう検討されたい。

老人保健施設アンシャンテについては、前年度に引き続き黒字を計上し、財務的には安定しているように見えるが、事業活動収入は、前年度に比し11,222千円の減、当期資金収支差額は6,057千円(前年度15,573千円)と前年度を下回り、今後の借入金の返済を考えた場合、収益向上を図るため、各関係機関・医療機関等への営業活動を強化されるよう要望する。

次に、入所者の処遇については、各施設ともきめ細かいケアプランと指導が行われるとともに、事故防止と健康管理も適切に行われていると認められた。

(2) 財務及び決算については、広範囲に亘り、各会計とも適切に処理され、財産の管理並びに予算の執行及び会計経理等、それぞれ規定の定めに従って、適切に処理されていると認められた。

#### 5. 今後の課題

今後、福祉施設に対する国の方針も、より厳しくなると考えられるので、来年の介護保険の改正に向け、積極的に情報の収集に努めるとともに、想定される変化に対応できるよう、法人組織の見直し、人材育成の対策を早急に検討実施されるよう要望する。